

「山陰への新幹線乗り入れは政府や党で議論されていますか？」

平成 27 年 8 月 18 日

●ケヤキさんからの質問

西田先生のビデオレター「メガリージョンと国土強靱化、国家戦略としての高速鉄道整備計画へ」の中で、先生は、超電導リニア、そして、新幹線のお話しをされていました。京都、舞鶴や、四国への新幹線についてのお話しもされていましたが、山陰への新幹線乗り入れは、政府や党内などで議論等されているのでしょうか？

●西田昌司の答え

昭和 45 年に「全国新幹線鉄道整備法」という法律が作られ、山陰新幹線を含めた多くの路線が計画されましたが、山陰新幹線は現在でも未着工ですし事実上中断されています。計画された路線が全て開通すれば日本全国に行き渡る新幹線ネットワークが出来上がりますし、是非とも実現させるべきではありますが、当初の計画時からかなりの年月が経っていますし、（私は新幹線ネットワークと関空を繋ぐことに非常に大きな意味があると思っていますので）ここでもう一度計画を練り直すべきです。

戦前は大阪が経済の中心でしたが、戦後は東京一極集中が進んで大阪はどんどん凋落してしまいました。大阪人には東京に対する妬みの気持ちがあるのでしょうかし、大阪都構想の住民投票の際に半数近くの大阪市民が賛成票を投じてしまったのも「東京には負けたくない」という心情がベースにあったからだと思います。しかし、二重行政を解消するために統治機構を改革して行政をスリムにするといった都構想で大阪が良くなるはずがありません。（ちなみに、道州制も都構想と同じ類の、誤った発想による政策です。）

戦後に大阪が東京に大きく引き離されたのはインフラ格差、特に新幹線整備の格差によるところが大きいのですから、大阪を中心とした新幹線ネットワークを構築して近畿圏全体を甦らせるという近畿メガリージョン構想を都構想の対案として私は提唱いたします。昭和の時代に大阪を中心とした北陸新幹線・山陰新幹線・四国新幹線の計画がきちんとされていたのですが、それらが実現したら大阪が一気に発展するのは間違いありません。

今、私は与党の委員会で北陸新幹線の延伸についての議論を活発にしています。現時点では東京ー金沢間が開業していますが、2023年には金沢ー敦賀間が開業の予定であり、最終的には大阪まで繋ぐ計画となっていますが、敦賀から先をどのようなルートにするか現時点では未定です。いろいろなルートが考えられますが、ここで私の考えを述べましょう。

まず、大都市の京都を通らない手はありませんが、京都を抜けた後に淀川沿いを走る東海道新幹線と並走して新大阪に入っても意味がありませんから、東海道新幹線よりも南側の別のルートを通して大阪を抜けて関空に向かいます。その後、関空では終わらずに和歌山に向かい、紀淡海峡を通して淡路島、再び海を渡って四国に向かいます。四国では徳島・香川・愛媛を横断し、佐田岬^{ふもと}を通して海を渡ると次は九州です。大分から阿蘇山の麓^{ふもと}を通して最後は熊本に到着、となります。こう話すと皆さんには大風呂敷を広げた話に聞こえるかもしれませんが、東京一極集中を止めるにはこのくらいの大きなスケールの構想が必要だと思っています。

これまでは北陸・近畿・四国・九州は別の経済圏でしたが、北陸新幹線を九州まで繋ぐことで北陸新幹線の沿線から大阪への距離が一気に縮まれば大阪を中心とした巨大な経済圏が誕生します。また、関空のアクセスの悪さを北陸新幹線が解消すれば24時間空港の関空を通して世界との距離も一気に縮まることとなります。東京は東北新幹線・上越新幹線・北陸新幹線・東海道新幹線がすでに接続されていて東京を中心に巨大な経済圏が出来上っています。2027年に東京ー名古屋間のリニア中央新幹線が開業する一方で、名古屋ー大阪間は18年後の2045年に開業となると東京と大阪の格差は今以

上に開いて大阪の凋落は決定的となってしまいますので、リニア中央新幹線を大阪同時開業させなければならないのはもちろんですが、（山陰新幹線も含めた）大阪を中心とする新幹線ネットワークの構築は大阪を救う最後の切り札と言っても過言ではありませんし、一日も早い実現を目指さなければなりません。

東京一極集中の是正は少子化対策にとっても重要です。東京にビジネスが集中している現在では職を求めて地方から東京に人が流入しますが、東京は住環境が悪いですし子育てをするにも大変です。新幹線ネットワークによって東京のビジネスを全国に分散させて、地方に住んでも職に困ることなくきちんと生活できるということになれば、故郷を捨てることなく親・兄弟・親戚・友人との繋がりにも助けられて故郷でのんびりと子育てもできますし、そうなれば少子化問題も自然と解消されるでしょう。

日本を取り戻すためにも、大阪を中心とした新幹線ネットワークの構築が不可欠ですし、新幹線ネットワークを国民的議論にしなければなりません。これまでのような遅々としたペースでは完成した頃には地方が消滅していたということになりかねません。新幹線ネットワークの構築が10年以内で実現するよう私はこれからも精一杯努力する所存です。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>